

①薬物療法

精子を増やす方法

精液検査をして濃度が低い場合、患者さんからこう聞かれます。「精子が増える薬ってありますか？」残念ながら、現時点で必ず効く薬はありません。ビタミン剤、亜鉛、漢方、ホルモン剤、ホルモン注射等色々報告されているものもあります。

しかしこれを使うと劇的に増える、という薬は報告されていません。報告が無い理由としては大規模な無作為化臨床試験ができない事があげられます。はじめに治療をしたい患者さんに効く薬と効かない薬を使っての研究はできないという事です。

ほとんどが作用のメカニズムが正確には解明されておらず経験的治療の範囲にしかありません。

さらに女性の年齢の高齢化に伴い治療のスピードを上げていく必要性があります。つまり精子の改善を薬でゆっくり待つよりも体外受精、顕微授精の治療を選択するケースが増加しています。

現在ある治療法について少し説明します。

内分泌療法と非内分泌療法の2種類があります。

A:内分泌療法

①ゴナドトロピン療法

具体的にはhMG とhCG の注射を組み合わせて治療を行います。週に3回程度注射を行います。

低ゴナドトロピン性の性腺機能障害にはとても有効な治療となります。

②抗エストロゲン療法

抗エストロゲン製剤により下垂体から GnRH の分泌を促進し内因性のゴナドトロピンの分泌を促進します。具体的にはタモキシフェン、クロミフェンを内服します。

③GnRH 療法

GnRH を用いることでゴナドトロピンの分泌を期待します。

B:非内分泌療法

①漢方

補中益気湯:精子運動性の改善に優れる。八味地黄丸:精子濃度の改善に有効。

牛車腎気丸:精子濃度および精子運動率の改善。

②カルニチン製剤

L カルニチン製剤(1～3g)投与により運動率、運動性の改善が報告されています。また精漿の抗酸化能の改善も報告されています。

③抗酸化剤

精子は酸化的障害に弱い細胞と考えられています。以下のものは精子の酸化的ストレスを低下し運動率の改善が期待されます。

ビタミンE(ユベラ):抗酸化剤、ビタミンC(シナール)、グルタチオン(タチオン)。

④微量元素

亜鉛:精子濃度、運動率の改善が報告されています。

セレン:精子運動率の改善が報告されています。

⑤ビタミン剤

ビタミンB12(メチコバール):精子濃度、運動率の改善が期待。

葉酸(フォリアミン):精子濃度増加が期待。

⑥カリクレイン製剤

カリクレインはタンパク分解酵素で精子の運動率の改善が期待されています。

ただいざれも治療効果が出てくるのに月単位の時間がかかります。直ちに妊娠を希望するのであれば
こういう薬物療法よりも体外受精のほうが妊娠までの期間が短縮する可能性があります。ただ比較的
時間に余裕がありあくまで自然妊娠を希望される場合こういう薬物療法をトライしてみる価値はあると
思われます。